

イスラエルとアメリカは、パレスチナでの暴虐、 犯罪をやめよ。日本政府はパレスチナに対する 人道支援を強め、パレスチナ国家を承認せよ

2025 年 9 月 30 日 沖縄日本から米軍基地をなくす草の根運動

パレスチナ、ガザで、飢餓が続いている。成人や子供などが餓死している。

食物がないからではない。食料はある。イスラエルが食料搬入をさせず、意図して
飢え死にさせている。

ガザ全域を高い塙で完全に囲み、人々が出ること逃げることもさせず、逃げ道
を完全にふさいだ状態にして、街の破壊と全住民対象の殺戮を続けている。

ガザの人々は毎日目の前で残虐な殺戮を見ている。

ガザの人びとは毎日、破壊と殺戮に怯えている。

イスラエルは、ガザ住民をすべて消滅させて、ガザをイスラエルのものとする
と公言し、殺戮と破壊（ジェノサイド）を続けている。

乳幼児も含め、武器を持たない民間人殺戮は重大な国際法違反、重大犯罪だ。

ナチスドイツの蛮行とイスラエルの暴虐

第二次大戦時、ナチスドイツはユダヤ人を集めて壁で囲まれた収容所に送って虐殺
した。

戦後、欧米諸国はナチスの虐殺を知ってナチスを断罪した。

現在イスラエルは、ナチスドイツを超えた蛮行を公然とおこなっている。人々を逃
がさないように塙で閉じ込めて、破壊と殺戮を続けていることを、世界中はリアル
タイムで見ている。

アメリカ合衆国の支援と支持、「先進諸国」の黙認

イスラエルだけでは、この残虐、蛮行は不可能だ。イスラエルの蛮行はアメリカの特別の支援と支持の上で行われている。

日本を含め「先進諸国」は、2023年10月「ハマスがイスラエルにテロ攻撃をしたことが今回の戦闘の原因」だと言明して、テロをおこなったハマスを非難した。そのうえで国によっては、「今後の不安」や「やりすぎはよくないがイスラエルは反撃自衛の権利がある」と追加コメントした。ハマス攻撃に名を借りたイスラエルのガザ住民全体への攻撃を黙認した。「先進諸国」がイスラエルに対して、非難や懲罰をせずに黙認していることも、イスラエルが蛮行を続ける保障だ。

イスラエルに対するアメリカの積極的支援、日欧「先進諸国」のイスラエル蛮行黙認と対象的に、アジア、アフリカ、南米諸国や国連諸機関をはじめとする多くの国際組織は、イスラエルを犯罪と認識して非難し、パレスチナ支援を行っている。

グテーレス国連事務総長は、ガザ地区の状況に注目し行動するよう全世界に呼びかけた。

国連安保理事会では、ガザ停戦決議が多くの理事国の賛成で成立目だったが、アメリカの拒否権で不成立に終わった。

建国以来のイスラエルによる侵略、虐殺、略奪の歴史とパレスチナ人の正当な抵抗 イスラエルによる民族浄化と国家犯罪

1948年のイスラエル建国以来、イスラエルは、パレスチナ人の土地と財産を強奪し、抵抗する人々を逮捕監禁、殺戮を繰り返して植民を進めた。

パレスチナ人は抵抗した。ナチスドイツの侵略に対してフランス人が戦ったと同じ、正当防衛の抵抗運動が、パレスチナでは70年以上続いている。

2023 年 10 月以来の戦闘は、ハマスのテロ（反撃）によって始まったのではなく、1948 年以來続いているイスラエルとパレスチナ間の戦闘の続きだ。

そして現在、イスラエルはパレスチナ人を抹消して、ガザ地区をイスラエルに組み込むことを公言するに至った。

ガザ地区の暴虐の影で、ヨルダン川西岸のパレスチナも、住民を消滅させてイスラエル人が植民し、土地と財産を強奪してイスラエルの一部にすることを加速し公然化するに至っている。

これらはすべて、重大な国家犯罪だ。

西欧諸国の変化と対米従属の日本政府

イスラエルによる凄惨な暴虐とパレスチナ人の苦痛が、リアルタイムで報道される中で、西欧「先進諸国」も、イスラエル非難とパレスチナ国家承認に動き出した。この間カナダ・イギリス・ポルトガル・フランス・オーストラリアが相次いでパレスチナ国家を承認した。

一方日本は、アメリカが許す範囲でしか言動せず、パレスチナ国家承認を拒否した。イスラエル非難をせず、さらにイスラエル製の武器を購入しようとするしている。

イスラエルとアメリカは、パレスチナでのジェノサイド大殺戮、犯罪をやめよ。

日本政府は、パレスチナ国家を承認せよ。

イスラエルの蛮行を黙認するな。

パレスチナへ人道援助を拡大せよ。

イスラエルからの武器購入をやめよ。